

○「元気な地域農業の推進を目指して」

(奈良県・斑鳩町農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

- 斑鳩町は奈良県の西北部を占める奈良盆地の西北部、矢田丘陵の南に位置し、総耕地面積は283ha(うち田230ha、畑53ha)が広がっている。古くから稲作中心の農業が営まれるとともに、大阪市などの都市部にも近いといった立地条件を生かし、イチゴ、梨、ブドウなども栽培されてきた。
- 都市近郊でもあり農地の宅地化が進展するとともに、農業者の高齢化の進展や担い手の減少などにより、遊休農地の増加が問題となっており、新たな担い手の確保が急務となっている。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

- 農業委員会が中心となって、「斑鳩の里・農と食の活性化プロジェクト推進委員会」を組織し、魅力と活力にあふれる元気な地域農業の推進を図ることを目的に、町内の遊休農地を借用し、実証展示圃として活用している。
- 実証展示圃では、菜の花や黒米、ジャガイモ等を栽培し、保育園児・幼稚園児によるジャガイモの収穫体験を実施するとともに、学校給食へ納品するなど、食育活動にも繋がっている。
- 菜の花は菜種油に加工し法隆寺へ奉納しており、黒米とともに斑鳩ブランド2019の認定を受け、地域の特産品として親しまれている。
- 黒米については、町観光協会が主体となって、県内の酒蔵や販売店と共に黒米酢を商品化し、斑鳩ブランド2021の認定を受けるなど、様々な商品開発を進めている。
- 毎月の農政特別委員会において、遊休農地の解消に向けた取組みについて議論を重ねている。